

授業づくりシート

学部・学年等	小学部第5学年2組				
付けたい力	○ 自ら考えて行動する力				
題材名	「朝の活動」				
題材の目標	学習活動	手立て（環境づくり） ①教材・教具、支援ツールの効果的な配置 ②児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用 ③教師の役割 ④児童生徒の役割	評価（環境づくりに視点を当てて）		
			前期	中期	後期
○ 日課や予定、活動内容を理解し、自分で次の活動に向かうことができる。 ○ 集団の中で自分の役割を意識し、自分で活動に向かい、役割を果たすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の挨拶をする。 ・ 教師のギター演奏に合わせて、歌を歌う。 ・ 係の児童が一人ずつ名前を呼ぶ。 ・ 係の児童がカレンダーからカードを選び、日付を発表する。 ・ 係の児童が天気カードを選び、発表する。 ・ 時間割ボードや時間カードを作成し、日課や授業開始時刻を確認する。 ・ 絵本の読み聞かせを行う。 ・ 終わりの挨拶をする。 	(ア) 日課や活動場所、授業開始時刻が分かるように、児童の課題に応じた時間割ボードを作成し、常に同じ場所に掲示する。①② (イ) 自分で係活動に向かうことができるように、名前カード付きのプログラムを使用する。② (ウ) 自分で係活動に向かうことができるように、道具を入れる箱を設置したり、机の近くに道具を置いたりする。① (エ) 係の児童が前に出てこないときには、司会の児童が道具を渡して活動を促す。④ (オ) 児童の自発的な動きを引き出すために、すぐに言葉掛けを行わず、児童の動きや様子を見守る。③ (カ) 前で発表するときに、立つ場所が分かるように、足型を貼った台を置いておく。②	○ 自分で時間割ボードを作成し、常に同じ場所に掲示しておくことで、日課を意識するようになり、活動が終わったときには、カードを外すようになった。(ア) ○ 名前カード付きのプログラムを使用したことで、自分の役割を理解し、自分から係活動に向かう姿が見られるようになってきた。(イ)	○ 足型を貼った台を前の立ち位置に置いておくことで、定位置で司会をしたり、日付や天気の発表をしたりすることができるようになった。(カ) ○ すぐに言葉掛けを行わず、児童の様子を見守ったことで、児童同士で活動を促す姿が見られ、自分たちが活動に向かうことができるようになってきた。(エ) (オ)	○ 時間割ボードを常に同じ場所に掲示しておくことで、自分で活動を確認し、次の活動場所に行ったり、必要な物を準備したりする姿が見られるようになった。(ア) ○ 名前カード付きプログラムの使用や係で使う道具を入れる棚を設置したことで、自分で係活動に向かい、道具を準備することができるようになった。(イ) (ウ)
<題材全体の振り返り> 取組当初は、教師の言葉掛けが多く、本当に自分で動くことができているのか、実はできているのかが分からなかった。取組を始めてから、すぐに言葉掛けを行わず、児童の様子を見守ることで、どの段階までできるようになっているのかということが分かり、段階に合った環境づくりの工夫を行うことができた。また、児童一人一人の課題をしっかりと見取り、個々に応じた環境づくりを工夫することで、児童の「わかる」、「できる」姿を引き出すことができた。特に、朝の会で日課の確認を行い、児童が日課や活動場所を理解することで、朝の会だけでなく、学校生活全般において、児童が自ら動く姿も見られるようになった。					

